

## 第6学年 総合的な学習の時間 学習指導案

福岡市立元岡小学校  
山本隆一

### 1 単元名「私の平和宣言」

### 2 単元目標

- 被爆体験者の方の話の聞いたり修学旅行で長崎の町や平和の取り組みについて調べたり、社会問題を解決しようとする方の話を聞いたりする中で、平和に対する人々の思いや願い、平和の大切さについて理解する。(知識・技能)
- 被爆体験者の方や社会問題解決に取り組まれている方の話を聞き、人々の思いを大事にしながら、自分の生き方を見つめることができる。(思考・表現・判断力)
- 世界の平和のために、身近な社会に目を向け、自分たちにできることを主体的に考え、行動しようとする心情を持つことができる。(主体的に学習に取り組む姿)

### 3 単元について

#### (1) 教材観

本校の児童は素直で優しく、思いやりを持って行動できる児童が多い。平和についても「大切にしなければならない」「守っていかなければいけない」「戦争は悲惨だ」という認識を持っている。

しかし、平和について身近なところに置き換えて考えたり、自分のこととして考えたり、何か行動に移そうとしたりするまでには至っていないのが現状である。

本教材は修学旅行での平和に対する学びや被爆体験者の方・社会問題を解決するために起業された方の話を聞くことで、今までの小学校生活を振り返り、これからの自分について考えるキャリアプランニングにおいて、様々な立場の人の気持ちを思いやり、社会問題に目を向け、主体的に関わり、解決していこうという心情を育てていく教材である。

#### (2) 指導観

本実践では、長崎への修学旅行の取り組みを通して、戦争の恐ろしさや平和の大切さだけでなく、平和の取り組みや平和を守ることの大切さを学ぶと同時に、平和の解釈を広げ、平和である状態とはどんな状態なのかを考え、問題解決に取り組まれている人々との出会いを通して人々の思いに触れ、自己の生き方について見直し、将来設計の一部として考えを深めることができると思う。

そのために、出会いの場面では長崎で被爆された方の話を聞き、「戦争の悲惨さ」「平和の大切さ」だけでなく、「なぜ、つらい経験を話されているのだろうか?」「子どもたちに何を受け取ってほしいと願っているのか」「これからの生活の中でどんな行動が大切なのか」の視点を持って話を聞かせ、修学旅行の取り組みに自分のこととして考えながら取り組ませていく。

また、調べ学習を行う際は戦争の悲惨さや平和の大切さだけでなく、戦争によって起きる社会問題についても意識させたり、世界の状態について本当に平和な状態であるのか、SDG'sのゴールの観点からも考えを深めさせていく。

子どもたちが平和や社会の問題に目が向いてきたとき、社会問題を国内・国外で解決するために福岡で起業されている「ボーダレスジャパン」の田口さんの話を聞かせる。「なぜ、起業して、社会問題に取り組まれているのか」「世界の社会問題をどう捉えられているのか」「どんな人材が集まり、どんな人材を必要とされているのか」などを話していただき、「社会は変革できること」「一人一人にできることがあること」「自分の将来の夢に田口さんの考えが生かせそうなこと」を学ばせていく。

深める段階では、修学旅行での学びや田口さんの話をもとに、平和の大切さや自分についてまとめを行っていく。また、国語科「忘れられない言葉」の学習と結びつけ、これまでの自分・これからの自分に目を向け、将来の夢や思い出を振り返ることで、キャリアプランニングにもつなげていく。

広げる段階では修学旅行で学んだことを「私の平和宣言」として自分の行動目標や

学級集団としてのあり方など、どんな行動をとっていくことが平和につながるかを考えながら作成し、オンラインで全校に報告する。

「私の平和宣言」を次の6年生の取り組み「立つ鳥運動」「ふわふわ言葉の取り組み」「クラスマッチ」などの取り組みに生かし、児童が変容した自分に気づいたり、活動を通して達成感を味わったりすることができるようにつなげたい。

#### 4 ESDとの関連

##### ① ESDの視点

###### A「多様性」

- ・戦争に至るまでの原因についての考えを深め、多様な考えかたがあることを知る。
- ・人種・国籍など、考え方や生き方は多種多様あり、それぞれを大切にすることが平和につながることに気づく。

###### B「相互性」

戦争は様々な問題を内包していることに気づき、平和の時組は戦争を止めること以外にもあることに気づく。

###### D「公平性」

戦争によって起こる様々な不平等について知る。

###### E「分け隔てなく、仲間作り」

相手の立場を思いやった言動や行動をとり、一人一人を大切にできる態度や行動。

##### ② 育てたい ESD の資質・能力

- ・多面的・創造的に考える力（戦争だけではなく、関連して問題が発生すること）
- ・コミュニケーションを行う力
- ・つながりを尊重する態度
- ・進んで参加する態度

##### ③ 育てたい ESD の価値観

- ・多様性の尊重
- ・人権尊重
- ・幸福感への気づき
- ・世代内の公正

##### ④ 達成に貢献できると思われる SDG's

- ・目標 1-3 貧困や弱い立場にある人々に対する十分な保護
- ・目標 10-3 差別的な法律や政策、慣行を撤廃し、機会均等を確実にし、結果の不平等を減らす。
- ・目標 11-1 安全で安価な住宅の基本サービスを確実に利用できるようにし、スラムを改善する。
- ・目標 16-1 すべての場所で、あらゆる形態の暴力と暴力関連の死亡率を大幅に減らす。
  - 16-2 子どもに対する虐待、搾取、人身売買あらゆる形態の暴力、そして子どもの虐待をなくす。
  - 16-b 差別のない法律や政策をすすめる、実施する。

5 単元計画 (全 27 時間)

段階	学習活動・学習内容	支援および留意点	評価基準
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">み つ め る ②</div>	<p>長崎への修学旅行について考える。</p> <p>①長崎の街についてイメージを広げる。 長崎ってどんな街？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中華街</li> <li>・歴史的な物が多い</li> <li>・ハウステンボス</li> <li>・原爆</li> </ul> <p>②修学旅行の準備をしながら長崎のことを調べ、学習問題を作る。</p>		<p>○長崎について興味関心を持つことができる。</p>
<p>学習課題① 長崎の平和の取り組みについて調べよう。</p>			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">調 べ る ⑭</div>	<p>2 長崎の平和について調べる。</p> <p>①被爆体験者の方の話を聞き、どんな想いで話をされているのか、想いを探る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原爆体験者の話を聞き、なぜ伝えていくのか、大切にしてほしい思いに気づく。</li> </ul> <p>②長崎の原爆の被害について調べる。</p> <p>③永井博士の思いに触れ、平和の大切さについての考えを作る。</p> <p>④広島・長崎の平和の取り組みについて調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦争の被害は一般人にある。</li> <li>・関係ない人まで犠牲になっている。</li> <li>・世界でも戦争があっている。</li> </ul> <p>⑤修学旅行で長崎に行き、平和について考えを深める。</p> <p>【関連】 道徳「六千人の命を救った決断～杉原千畝～」</p>	<p>○伝えたい想いについて意識させる。</p> <p>○永井博士の平和への想いについて意識させる。</p> <p>○友達とできる・作る平和について考えさせる。</p>	<p>○平和の大切さについて主体的に調べようとしている。</p> <p>○人々の思いや願いを大切にしようとしている。</p> <p>○友達と協力して修学旅行成功させようとしている。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">深 め る ⑥</div>	<p>3 修学旅行のまとめを行い、社会の現状に目を向け、学習問題を作る。</p>		
<p>学習課題② 今、世界は平和といえるのだろうか？</p>			
<p>① 5 年学習「SDG's を知ろう」をベースに、現在の社会情勢について調べる。</p> <p>② 様々な社会問題があり、平和な状態でないこと、問題を解決するためにできることを考える。</p> <p>③ 社会問題を解決することを目的に企業された田口さんの話を聞き、これからの自分のあり方について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・なぜ、社会問題を解決しようと思ったのか。</li> </ul>		<p>○前年度総合を想起させる。</p> <p>○平和な状態とはどんな状態なのか考えさせる。</p> <p>○一人一人が意識すれば問題解決できることを意識させる。</p>	<p>○改善すべき社会の現状に気づくことができる。</p> <p>○田口さんの話を</p>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな想いを持ってやっているのか。</li> <li>・どんな世界を目指しているのか。</li> </ul> <p>④ 田口さんの話を聞き、自分の将来について考えを深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どんな仕事をしたいのか。</li> <li>・どんな人間になりたいのか。</li> </ul> <p>【関連】 道徳「技術で「障がい」をなくしたい～遠藤 謙～」 学級活動（栄養教諭）「食品ロス問題」 社会科「近代国家を目指して」</p>	<p>○一人一人の考え方や行動が大切であることを意識させる。</p>	<p>聞き、自分の考えを持つことができる。</p>
<p style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">広げる ⑤</p>	<p>4 修学旅行のまとめと田口さんの話を聞き、「私の平和宣言」を作り、全校に発表する。</p> <p>① 今まででの学習のまとめから、私の平和宣言の内容を考える。</p> <p>② 学級で私の平和宣言の発表会を行う。</p> <p>③ 全校に報告する修学旅行のまとめと私の平和宣言を作り、オンラインで放送する。</p> <p>【関連】 図工「未来の私」 【発展】 【1月】 九州大学アメフト部との交流 【2月】 総合「立つ鳥運動」 「卒業式の取り組み」</p>	<p>○どんな考え方で、どんな行動をするのか明確にするように言葉がけを行う。</p> <p>○今までの自分との変容が分かるワークシートを準備する。</p> <p>○学んだことを次の取り組みで生かすことを伝える。</p>	<p>○学んだことや人々の思いを大切にし、自分の行動目標を作ることができる。</p> <p>○自己の変容について意識することができる。</p>

## 6 指導の実際

### ①「見つめる段階」

見つめる段階では長崎への修学旅行の趣旨である平和学習の導入を行った。長崎の町の特徴を調べ、「なぜ、平和の取り組みが多いのか」、「原爆の記憶を残しているのか」、「訪れる人々に何を伝えたいのか」、「どんな想いを持って取り組んでいるのか」の視点で学習を進めていった。原爆についての学習は6年間の平和学習でなんとなく知っていたが、平和のための活動については知らない児童が多く、人々の思いや願いについて意識することは初めてだった。そこで地域の被爆経験者である松本さんをGTとして招き、当時の様子や被爆体験のこと、戦争に対する想い、子どもたちに対する願いを話してもらった。講演の内容に「平和を守り育てる」「何のために講演活動をしているのか」「子どもたちに願うこと」などを話してもらい、自分たちも平和の担い手であることを意識づけていった。松本さんの想いを受け継ぎ、長崎へ修学旅行へ行くことにより、どんな想いで取り組みが行われているのか、自分たちにできることは何なのかを学び取るという目的意識を作っていった。

<資料①長崎のイメージについて>

1 長崎って、どんな町？長崎のイメージについて書きましょう。

・海外の文化がある ・ハウステンボスがある  
 ・平和を大切にしている ・島がいっぱいある  
 ・おいしいものたくさんある ・ガラスの砂浜  
 ・魚がおいしい ・カステラ ・バイオパーク

2 長崎市の地図から分かることを書きましょう。

平和・歴史・文化を大切にしている  
 ・原爆被爆都市…平和の大切さを伝える  
 ・明治日本の産業革命…西洋の文化や  
 ・海外の文化 } 技術ものをこしている

1 長崎って、どんな町？長崎のイメージについて書きましょう。

・外国との貿易が栄えた所 寺が多い  
 ・原爆を落とされた町、中華料理  
 ・坂道が多い、船が通るれて…  
 ・教会、観光名所が多い、キリスト教  
 ・日本人、戦争

2 長崎市の地図から分かることを書きましょう。

寺が多い、平和に 関する建物が多  
 ・教会がある、山に囲まれている  
 ・坂道が多い

・異国文化・ハウステンボス・外国との交流・平和を大切にしている  
 ・原爆を落とされた（被爆都市）・寺院が多い  
 など、外国文化や歴史的な物、原爆などの知識を持っている。

<資料②松本さん話を聞く様子>



<資料③松本さんの話を聞いて>

お話を聞いて前より、もっと、命の大切さ、  
 平和の大切さを感じました。た、たいしゅ  
 んで、たくさんの方がせくなられて、生きてい  
 ても、つらい思いをしつづけてきたんだと  
 思いました。そのつらい思いがありながら  
 話をしてくださって、平和な世の中は、  
 こわしたらいけないと思いました。

そのために、まず、近くにいる友達や、  
近所の人などを大切にしていきたい  
 など思いました。また、修学旅行にい  
 て、もっと、いろんなことを知って、平和に  
 ついて考えていきたいなと思いました。

自分たちがこれから平和と作って  
 いかなければならないと聞いて  
 自分なりにできることをやって、  
 続けていこうと思、ました。

学校の中でおきているいじめはいじ  
 めている人を注意してりするだけでも、  
 ケンカやワガをしらないですむと思  
 ったので、いじめはつ、るを見かけ  
たら、助けてあげようと思、います。  
いじめを繰り返さなければ、学校も安全で平  
和な学校にな、てい、く信じています。  
 さようなお話ありがとうございました。

② 「調べる段階」

調べる段階では、松本さんの話を意識させながら、長崎の平和に関する施設や取り組みを調べていった。特に永井隆博士の生き方に注目させ、人々のために活動されたことや如己堂が作られた想い、永井博士の作品に込められた想いなどから、自分だけではなく、すべての人に対する思いやりや愛情が大切であること、いろいろな平和への向き合い方があることに目を向けさせていった。

実際に修学旅行のフィールドワークに行く場所を事前に調べ、「どんな想いが込められているのか」をフィールドワークで確かめさせていった。「戦争や原爆を落とされたことへの怒り」「平和について考えることが平和への第一歩である」「今ある平和を大切にしていこう」など、それぞれが平和に対する学びを深め、自身にできる小さなことを考えていった。

<資料④ 修学旅行の事前調べ学習>

フィールドワーク でまわる場所	どういう場所か、どんな 「想い」「願い」「祈り」が 込められているのか?	見学の ポイント
①2 平和公園 平和祈念像 平和の泉	平和戦争犠牲者の 冥福という祈りが込め られている。 悲惨な戦争を二度と 繰り返さないという誓い。	平和の願い 祈念像 冥福の祈り 平和の泉
③ 山里小学校	平和を尊ぶ気持ち 大切にす場所にする という思いがこめられて いる。平和への願い	あの子ら の足 防空こう
④ 如己堂・永井記念館	如己堂の意味… 「己のごとく人を愛せよ」 現代、未来に生きる 人々の平和活動の礎 を最後に世界に平和が 訪れるこの祈り。	永井博士 の生きざし メッセージ

フィールドワークで実際に見学する施設や場所について事前に調べておき、現地にて詳細を見学するように促した。  
見学の視点に「作られた・残されている想い」を盛り込んだ。

名前 (水崎 涼太)

1. あらて 世界の平和について調べてみよう。

2. 今、世界は平和ですか? 自身の考えを書きましょう。  
今も昔も平和だと思いません。なぜなら、ロシアがウクライナを侵略して戦争になってしまいましたが、また平和になることがなかなかありません。戦争を繰り返さないように祈ります。

3. 世界の社会問題について調べてみよう。

どこで どのような問題が起こっているのか?  
 貧困と飢餓 貧困の中で生きることが難しい。  
 環境問題 自然災害  
 教育問題 教育を受けられない人が多くいます。  
 気候変動 自然災害が増え、地球が壊れていっています。

4. 世界の文化や歴史について調べてみよう。  
 いろいろな文化や歴史があります。自分たちが住んでいる国や地域について調べてみましょう。

5. 世界の平和について調べてみよう。  
 世界にはいろいろな平和活動があります。自分たちが住んでいる国や地域について調べてみましょう。

フィールドワーク でまわる場所	どういう場所か、どんな 「想い」「願い」「祈り」が 込められているのか?	見学の ポイント
①2 平和公園 平和祈念像 平和の泉	悲惨な戦争を二度 繰り返さないという誓 い。 世界平和への願い を込められています。	
③ 山里小学校	生と死、子供たちが 平和な世界への希望 を込めて祈る場所 です。	
④ 如己堂・永井記念館	如己堂の意味… 「己のごとく人を愛せよ」 多くの人に受け継がれ たい永井博士の平和 な人間性の象徴です。	

<資料⑤ フィールドワークでの学び>

1日目のふり振り返り

○今日、平和に関するフィールドワークをして、あなたが学んだこと、これから平和を守るためにあなたにできることなど、考えて書きましょう。

長崎はすく平和について考え  
ていて、戦争のひどさを伝えるた  
めに、いろんな所に、原爆がおと  
された。その日のまま残されてい  
て、平和の大切さを感じました。  
そして長崎では、いろんな文化  
や歴史のおもかげもあって、昔江戸  
時代にもたくさん人がいききて、  
海外と日本をつなぐ入口として、  
たくさんものが伝わってきて、  
長崎は昔から歴史、文化を大切に  
守っています。

またこれから平和を守るには、平和について  
考え、にと、戦争をしないこと、人々  
を大切にしよう、と、平和を大切に  
守りたいです。

1日目のふり振り返り

○今日、平和に関するフィールドワークをして、あなたが学んだこと、これから平和を守るためにあなたにできることなど、考えて書きましょう。

こんかいのフィールドワークであら  
ためて原爆のおそろしさ、こわさ  
そしてたくさんの方がなくなること  
がわかりました。  
そしてこれから先も平和を大切に  
していきたいです。

これから先もいろんな人に平和の大切  
さを伝えていきたいです  
これからも小さなことでもいいから  
ありがとうや、いただきますをわすれず  
ふたふたはを忘れないで生きていきます。

また、道徳科「六千人の命を救った決断～杉原千畝～」の学習と関連付け、「困った人がいたら助ける」「温かい気持ち」「生き方」についてを学びを深めていった。「自分の行動が誰かの平和につながること」「自分も誰かのために何かをしてあげる人間の一人であること」に気づいていった。

<資料⑥道徳学習後の感想>

☆自分をありがたって  
杉原さんの生き方が学んだことを書かしてみよう。

自分の正義をつらぬくことはむずかしいけれど、このように、価値感で行動して、ほしかったと思えました。また、このような生き方をたくさん残していってほしいと思えました。

杉原さんの生き方から学んだことは、外国人、日本人を大切にする心でした。外国人、日本人を大切にする心で人と向き合うことが出来るからです。

人々のために、自分の価値感をつらぬき通して、ルールにはんしてきむ助けをあげるということ。人々がみな、杉原さんのように、人々のためにという気持ちを持つことが大切。杉原さんの行動が、私に大きな影響を与えてくれた。

③「深める段階」

深める段階では修学旅行のまとめを行いながら、「今、人々は平和なのか」について問いかけた。世界では紛争や戦争があっているが、そうでない国々の人々は平和に暮らしているのか、日本は戦争に巻き込まれていないから、すべての人が幸せに暮らしているのか問いかけ考えさせていった。考える視点として、5年生総合的な学習の時間で取り組んだ「SDG'sについて知ろう」を思い出させ、SDG'sの観点を持たせ、日本や世界の現状について調べていった。日本や世界の現状について調べ、すべての人が平和に安心して暮らしているわけではないことに気づくことができたので、松本さんの願いである「平和を守ってほしい」「平和を作る大人になってほしい」を思い出させ、どんな考え方や行動が平和につながるかを考えさせていった。

<資料⑦平和につながる考え方や行動>

1 めあて  
自分に...子どもにできる平和の取り組みについて考えてみよう。

2 世界の平和につながる行動とはどんな校でしょうか？  
なにかうまいことをやったらありがとうと感謝をする。  
友だちがこま、マいたらどうしたの？声をかける。

3 学校や学級・家族でできる平和の取り組みを考えてみよう。  
なにかお話をしよう。ときは、あかしの感謝。  
教室に：かおろて、らう、それを捨てる  
いたたま、ごろう、まひ、を言う  
けんかでも最後はごめんを言う

4 あなたが思う、平和な世界とは、どんな世界ですか？  
世界中の人が、みんな笑顔で暮らしていることの世界。

自分...子どもにできる平和の取り組みについて考えてみよう。  
世界にいる人たちが、相手を思いやる気持ちを持つこと。

学校や学級・家族でできる平和の取り組みを考えてみよう。  
・いじめをなくする  
・まわりにいる人に興味関心をもつ  
・いろいろな人と話しをする(関わる)  
・この感謝状を伝える  
・自分の気持ちを伝える  
・困っている人を助ける(小さなことでも)  
・家族、近所にいじめをしないようにする。

身近なところで自分にできることを考えていた。具体的な行動を考えたり、理想の世界について考えることができた。

また、キャリア教育の一環として、社会問題をビジネスで解決することに取り組まれている「BorderlessJapan」の田口さんをGTに招き、田口さんの活動や考え方や想い、生き方について話を聞くことで、「すべての社会問題は平和につながっていること」「一人一人のアクションが大切なこと」「問題は解決することが可能であること」に目を向けさせ、これからの自分の生き方の参考としていった。田口さんの話を聞いたことにより、問題は身近なところにも見えないだけであることや自分たち子どもにもできることがあること、小さな笑顔を作ることはたくさんできることなどを学び、将来の展望へとつなげていった。

<資料⑧田口さんの講話と質問する児童の様子>



<資料⑨田口さんの講話から学んだこと>

田口さんの話を聞き、これからの自分や社会との関わり方について考えを深めよう。

2 田口さんの想いを聞き、【心に残った・胸を打った言葉】など、受け取ったことを書きましょう。

田口さんの話を聞き、他の人のためにいじやいぬい考えて行動することはすごいなと思いました。また人と比べなくていい人ということを感じました。そして大人になることは楽しい人だなと思いました。

3 田口さんの想いを知り、自分の考えが【今までと考え方が変わった】【やってみてみたい】【もっと知りたい】と思ったことを書きましょう。

田口さんの想いを知り、もっと、やってみたいことにちよせんしていきたいなと思いました。また、少しでもSDG'sに目を向け、近くにいる周りの人を大切にしていきたいなと思いました。そして、今や、いることはみんなのためにやっているのか考えて、目標をもていきたいなと思いました。

田口さんの話を聞き、これからの自分や社会との関わり方について考えを深めよう。

2 田口さんの想いを聞き、【心に残った・胸を打った言葉】など、受け取ったことを書きましょう。

これかいろいろな社会問題が出てきたら、自分にもできることは必ずあるから、やってみようか。この世の中の人の役に立ちたいと思いました。また、やりたいことがたくさんあるから、やってみようか。と分かりました。

3 田口さんの想いを知り、自分の考えが【今までと考え方が変わった】【やってみてみたい】【もっと知りたい】と思ったことを書きましょう。

今まで外国の人とあまり関わることがあまりなくて、外国の人を知らずに、自分の中で良い悪いを決めていたけど、それはダメで、勝手に決まらない戦争につながると思うから、外国の良い所をたくさん見つけて、協力できるようにしたい。と思った。

- 他人のために一生懸命になれることはすごい。
- SDG'S に目を向け、周りの人を大切にしていきたい。

- 外国の人ら図に、自分の中で「よい」「悪い」を決めていた。
- 思い込み・決めつけが戦争につながるからよいところを見つけたり協力したりしていきたい。



<資料⑫児童が作成した「私の平和宣言」>

## 私の平和宣言

～みんなが笑顔になる世界へ～  
そのために、近くの人々の笑顔を大切に、その「輪」を広げていく。そして、小さな笑顔を大きな幸せにする。

これからの私たちにできること

いろいろな人とコミュニケーションをとり、相手のことを正しく知り、友情を深めていく。

- ～みんなが笑顔になる世界へ～  
近くの人々の笑顔を大切に、その「輪」を広げていく。そして小さな笑顔を大きな幸せにする。

## 私の平和宣言

戦争の恐ろしさを伝え続け、平和の大切さを忘れない。

これからの私たちにできること

いろいろな国の人と友達になって相手の国のことを知り、日本のことも知ってもらう。

- 戦争の恐ろしさを伝え続け、平和の大切さを忘れない。
- 色々な国の人と友達になって、相手の国のことを知り、日本も知ってもらう。

### 7 成果と課題

- 原爆体験者の松本さんの願いを聞くことで、「戦争をしない」ではなく、「平和を作っていく」という意識を持つことができた。
- 修学旅行の取り組みを通して、戦争・平和に関する学びだけではなく、SDG's と関連を図ることで、平和に対する認識が広がった。
- 「BorderlessJapan」の田口さんの話を聞くことで、社会問題は解決することが可能であること、一人一人のアクションで世界を変えることができることを知ることができた。
- 田口さんの話を聞き、自分にもできることがあること、人との関わりが社会問題解決に大きく関わってくることを知ることができた。
- 田口さんの話と SDG's を結びつけることで、社会はつながっていること、すべての問題は関連していることに気づくことができた。
- 道徳をカリキュラムを見直し、計画的に配置することで、修学旅行の取り組みと総合の課題を結びつけることができた。
- 「私の平和宣言」を作成することで、自分になかった価値観に気づくことができた。
- 「人の思い」を中心に学習計画を立てることにやり、「願い」「理想の世界」「希望」など、これからの自分と重ねながら活動に取り組むことができた。
- 学級の問題に対しても「必ず解決できる」「これくらいの問題が解決できないと世界平和は実現できない」と問題に対して前向きに向き合うことができる児童が増えた。
- 自分たちが幸せな状態にいることに気づき、みんなを、みんなを、という考えを持つ児童が増えた。
- 修学旅行前の1週間がオンライン学習となったことで、意識の継続が難しい児童がいた。
- 「平和」「キャリア」「SDG's」と内容が盛りだくさんになり、意識の継続が難しい児童もいた。
- 「宣言」を「行動」に移す活動を、取り組みに盛り込む必要がある。

### 8 今後の見通し

学校や身近なところに関する問題に目を向け、問題に対して前向きに取り組もうとする心情は育ってきた。1月から卒業に向け、キャリア教育と関連付けながら意識を継続させていく必要がある。九州大学アメフト部の地域貢献の取り組みを取材していきながら、自分にできる小さな取り組みがあること、身近なところで取り組んでいる人たちがいることに気づかせ、交流することで一人一人のアクションが大切だという認識をさらに深めたい。その後、卒業の取り組みと関連付け、学校内の課題・問題に目を向け、気づき発見した内容に対して、積極的に課題解決を図っていくことで、SDG'S や地域の課題を自分のこととして関わっていける素地を培っていききたい。